

令和3年度学校評価 自己評価報告書

I 学校評価について

1 はじめに

当校の教職員が自校の運営状況を点検する自己評価は、平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局通知「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に、評価項目を設定し平成29年度から開始した。

平成30年度は評価基準を4段階（「適切」「ほぼ適切」「やや不適切」「不適切」）に設定し、令和3年度は評価の客観性を高め、教育の充実を図るため、学校関係評価者を2名から9名に増員し評価体制を充実させた。学校内部で評価した結果を報告書にまとめ、その報告書を学校関係者評価委員が客観的な視点から評価・意見等を学校に報告している。自己評価及び学校関係者からの評価結果はホームページに公表している。

2 評価体制

- ・学校評価委員は学校長、教頭、事務長、教務主任の4名、必要な事項は実施要綱に定め管理・運営。
- ・学校関係者委員は実習施設から関係者4名、教育機関から3名、卒業生代表・行政から各1名の9名体制。

3 評価の種類

- (1) 教職員が学校運営評価表を用いて学校運営全般を自己評価する「教職員による自己評価」
- (2) 令和3年度の重点目標（組織目標）達成に向けた取組状況の評価する「重点目標の評価」
- (3) その他、次の5つの取組みを評価
 - ・学校業務・委員会の取組状況
 - ・学生の学校生活満足度調査
 - ・公開授業「看護技術」に参加した実習指導者との意見交換、アンケート調査
 - ・授業参観に参加した保護者アンケート調査
 - ・看護職員研修に参加した看護職員アンケート調査

II 教職員による自己評価

1 学校運営評価

- (1) 評価項目は、大項目9個、中項目23個、小項目は63個、細項目は164個（下表参照）
- (2) 評価基準は、4段階（4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切）

	大項目(9項目)	中項目(23項目)	小項目数(63)	細項目(164)
1	教育理念・目標	1) 教育理念、目的、目標の評価	2	4
		2) 将来構想の明確化	1	2
2	学生受け入れ	1) 学生募集の方法	3	7
		2) 入学選抜の方法	1	2
		3) 学生定員の量・質の充足・学生募集評価	2	4
3	学生支援	1) 学業継続の支援	5	13
		2) 社会人の支援	1	1
4	教育活動	1) 教育課程の編成	3	7
		2) 教授・学習評価過程	6	22
		3) 単位管理	1	3
		4) 指導者の確保・育成	5	12
		5) 学修成果	4	10
5	教育環境	1) 教育環境の整備	4	16
		2) 実習施設の整備	2	7
		3) 安全対策	1	2
6	学校管理・運営	1) 学校経営	3	4
		2) 組織管理	6	21
		3) 教職員の育成	2	6
		4) 卒業生の支援	1	3
		5) 評価	1	3
7	財務	1) 財務・収支	3	6
8	法令の整備	1) 法令・規程の整備	3	6
9	社会貢献	1) 社会・地域貢献	3	3

2 自己評価の実施

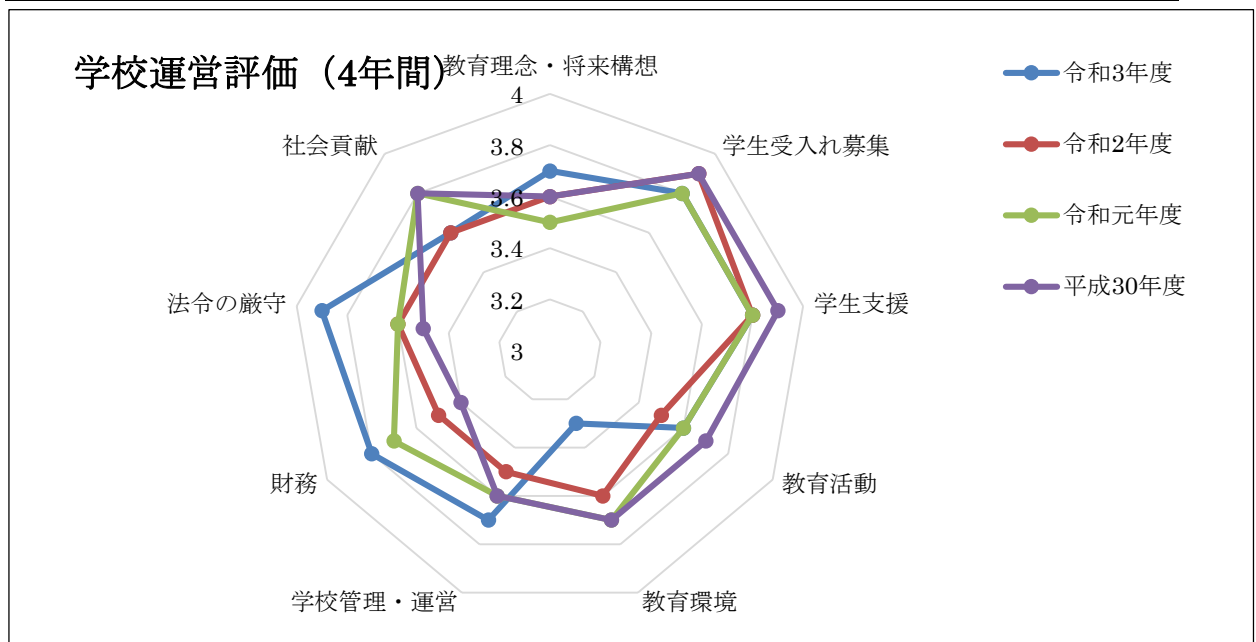
対象：教職員 11名（学校長除く） 内訳：教員9名、事務職員2名

評価基準日：11月30日 調査期間：令和3年11月30日～12月7日

調査方法：校内ネットワークを用い、データを入力し集計表に保存。

3 自己評価表の集計結果 有効回答100% 評価基準：4(適切) 3(ほぼ適切) 2(やや不適切) 1(不適切)

大項目	令和3年度(前年度比較)	令和2年度	令和元年度	平成30年度
1 教育理念・将来構想	3.7 (↑)	3.6	3.5	3.6
2 学生受入れ募集	3.8 (↓)	3.9	3.8	3.9
3 学生支援	3.8 (→)	3.8	3.8	3.9
4 教育活動	3.6 (↑)	3.5	3.6	3.7
5 教育環境	3.3 (↓)	3.6	3.7	3.7
6 学校管理・運営	3.7 (↑)	3.5	3.6	3.6
7 財務	3.8 (↑)	3.5	3.7	3.4
8 法令の厳守	3.9 (↑)	3.6	3.6	3.5
9 社会貢献	3.6 (→)	3.6	3.8	3.8



4 大項目評価 前年度比較の増減の要因

大項目（評価）		前年度比較の増減の要因
1 教育理念・将来構想 (3.7)	増	年度当初に運営方針や年度目標を教職員に周知。各委員会の活動に反映させ取組み状況を9月に中間・3月に最終評価を行い、課題解決に繋げている。
2 学生受入れ募集 (3.8)	減	コロナ禍で進学が「ダンス」に参加する機会が減ったり、高校への訪問も控えたことから評価が若干下がったが、オープンキャンパスはオンラインで行い、見学会は個別対応する等、できる範囲で募集活動を実施した。
3 学生支援 (3.8)	維持	コロナ禍でも就職活動・心理相談は昨年同様に実施。電話相談も併用した。
4 教育活動 (3.6)	増	新カリキュラム整備のため教育課程を見直し、科目編成の意図や変更内容を教員間で共通理解し検討を重ねた。教員「が」連動の研修計画の検討は継続。
5 教育環境 (3.3)	減	オンライン授業の学習環境は昨年度より整い充実した。評価が低い項目は実習中の指導者配置の不足、校内行事の縮小、結城市防災訓練の参加が中止になったこと等、コロナ禍の影響によるものであった。
6 学校管理・運営 (3.7)	増	評価が高い項目は危機管理マニュアルの作成、研修活動、職員の協働意欲であった。コロナ禍での実習は学内に変更する等、教職員全体で取組んだ。
7 財務 (3.8)	増	教員は教職員会議で運営予算や決算状況について定期的な報告を受け、財務関係の理解が深まった。
8 法令の厳守 (3.9)	増	コンプライアンス・ハラスメント等の規程を整備し教職員へ周知した。
9 社会貢献 (3.6)	維持	コロナ禍の影響によりボランティア活動は昨年同様、中止になっている。

Ⅲ 令和3年度の重点目標（組織目標）の評価

1 目標ごとの取組み状況 評価基準日：11月30日

○目標1 新入生の定員及び総定員の確保

今年度の取組み結果	評価方法、課題、改善策
<p>(1) 学生募集活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス7回実施 対面4回、オンライン3回(緊急事態宣言期間) 参加者114人(保護者23人含む) ・高校訪問・進学ガイダンス参加 年間100校目標 11月30日現在76校 ・入学試験7区分実施 指定校制・公募制入試(11月) 学士・社会人入試(第1回11月、第2回1月) 一般入試(第1回1月・第2回2月) 就業施設推薦入試(1月) 	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集活動は目標値(100回・100人以上)の達成状況、参加者アンケートの結果から評価 ・学校運営評価結果3.8~3.9(小項目) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス等参加者の当校受験の有無など動向を評価し、戦略的な募集活動の評価材料を蓄積する。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス等の募集活動の参加者と受験状況の実態を調査する。
<p>(2) 入学後の学生数の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生と定期的な面談を計画し、学習・心理面から支援を継続・強化した。 ・必要時は保護者に連絡し支援方法の検討を進めた。 ・カウンセラーによる学生相談を月2回実施し、結果を担任と共有し切れ目のない支援を継続した。 ・学習の困難さを表出している学生への対応をカウンセラーに相談し、特性に応じた支援方法を検討しながら支援した。 	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生との定期面談の結果、保護者・カウンセラーとの相談結果やその経過を評価 ・学校運営評価結果3.9(小項目)を活用 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習困難な学生が看護師志望の揺らぎや孤立感を感じないように、できるだけ教員間の支援方法の統一する。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員がカウンセラーとタイムリーに相談できる体制を調整する。 ・学習困難な学生の支援方法について教員間で検討する機会を設ける。 ・学習困難な学生の支援に関する学習会を企画し、個別相談ができる機会を設ける。

○目標2 学習支援を充実し、看護師国家試験全員合格を目指す

今年度の取組み結果	評価方法、課題、改善策
<p>(1) クラス運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19感染拡大状況により講義はオンラインか対面授業を、実習は学内か臨地での実習を、講師や施設等と感染状況を確認しながら感染対策を講じ、教育を進めた。学生への説明は頻回に行い、学習や心理面に心配な学生へは個別相談の機会を設け、早めに対応した。 ・学生が主体的な学習行動がとれるよう、日頃から声掛けを積極的に進めた。 	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業では参加状況、課題内容の達成状況を、実習では学習姿勢や達成状況等から評価、また模擬試験の結果等はクラス全体の学習取組み状況として評価 ・学校運営評価結果3.4(小項目) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け身の学習態度から脱却できない学生への支援方法を教員間で統一する。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の主体性を育てる支援方法を、教員間で検討する機会を設ける。
<p>(2) 国家試験対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で年間の国家試験対策を計画し、模擬試験等を実施・評価した。結果はクラス・個別に伝え、課題解決に向けた指導を行った。 ・1年次は学習習慣の定着化を図る指導を、2年次は既修得科目・国家試験の必修科目の学力向上を、3年次は模擬試験の結果が合格圏内を維持できるよう個別指導を強化した。 	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策の取組状況や成果に関する要因分析の結果や、取組状況から評価 ・学校運営評価結果3.7(小項目) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力が低迷している学生の学力向上・心理面への支援方法を教員間で検討し指導方法を統一する。

	<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力低迷者の学習課題を早期に捉え、対策を段階的に進める。教員間で統一した支援方法を検討しながら支援を強化する。 ・必要時はカウンセラーや保護者に相談し支援体制を強化する。
--	---

○目標3 教職員の教育力の向上及び教育内容の充実を図る

今年度の取組み結果	評価方法、課題、改善策
<p>(1) 教育課程の編成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラム改正に向けた教育内容・方法の検討を週2～3回計画し実施した。 ・7月のヒアリングの結果、専門基礎分野の科目に演習を追加するよう指導があったため、教育内容に追加・修正し10月申請までに完了した。 	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム検討の会議報告や教育課程の作成過程、及びヒアリング結果から評価 ・学校運営評価結果3.5～3.6（小項目） <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規科目を設定した基礎分野や地域・在宅看護論の担当講師の選定及び依頼する。 ・地域・在宅看護論（演習）の関連施設との教育方法等を調整する。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記課題の2点を計画的に進める。
<p>(2) 実習指導体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な実習指導者会議を通して、実習内容・方法について、施設側と具体的に調整した。 ・コロナ対応により実習指導者が不在の場合は、教員が指導体制の調整・実地指導を行った。 	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者会議の結果、実習指導状況の報告から指導体制を評価 ・学校運営評価結果3.5～3.8（小項目） <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習で指導者がコロナ対応等により不在の場合は事前にその対応を調整する。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者の不在時対応は事前に打合せを行い、支援体制を調整する。
<p>(3) 教員の能力開発の強化、協働意欲の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修を積極的に取入れ実施した。 ・受講後は伝達講習を実施し学びを共有した。 ・看護技術演習の授業に指導指導者の参加を依頼し、直接指導（参加型）と間接指導（見学型）で技術指導の強化に努めた。指導者間と事前・事後打合せを行い、授業評価に繋げた。 ・教員のキャリアラダーの教育プログラムの検討は新カリキュラム申請後に進める予定であったが、コロナ対応を優先し検討が進まなかった。 	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の受講状況・伝達講習の実施状況から評価、看護技術演習の事前・事後の打合せ結果や、実施後の意見交換、アンケート結果から評価 ・学校運営評価結果3.3～3.4（小項目） <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加型の技術演習に参加希望の施設が多いので指導方法を検討する。 ・教員の教育内容を検討する。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加型の看護技術演習指導（案）を作成する。 ・教員の教育プログラムの検討を進める。

○目標4 県内就業率の維持・向上

今年度の取組み結果	評価方法、課題、改善策
<p>(1) 就職相談の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師のキャリア形成に向けて、1年次は専門職業人としての心構えを、2年次は就職活動への動機づけ、3年次は職場選択への意思決定など、段階的・継続的に支援した。 ・就職活動はコロナ禍の影響を受けないよう3年 	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の就職希望から決定までの支援状況の報告及び個別の支援状況を評価 ・学校運営評価結果3.7（小項目） <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現2年生の就職説明会の実施時期を検討する。

<p>次4月から開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動オリエンテーションは教務主任が行い、学生の個別指導は担任が担当した。 	<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院等の就職説明会に合わせ、就職説明会は2年次の3月に実施し、就職活動を開始する心構えを整える。
<p>(2) 就職情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職情報コーナーの活用は3・4月に集中していた。新着情報は学生に周知していたが、情報コーナーを活用する学生は少なかった。 ・学生は教員の助言や先輩の就職活動記録を参考にしていることが多かった。 ・学生満足度調査の就職関係では3年生は満足度が高かったが、2年生は情報が少ないと回答していた学生がいた。 	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の就職情報コーナー活用状況、学校生活満足度調査の結果から評価 ・学校運営評価結果 3.8 (小項目) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が就職情報を取りやすい情報発信の方法を検討する。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新着情報が可視化できるコーナーの配置の工夫、先輩の就職活動記録の活用など、学生のニーズを捉えながら、就職先決定を支援する。

○目標5 組織の効率化及び効果的な運営の推進

今年度の取り組み結果	評価方法、課題、改善策
<p>(1) ICT 環境の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT環境の整備は昨年度から取り組み、今年度は運用しながら不具合を調整した。 ・オンラインによる授業・学生の個別指導、研修会の受講・指導者等の会議に運用など、幅広く活用した。 	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運用状況、不具合時の対応等から評価 ・学校運営評価結果 3.4 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホストとして会議を運営する場合の音響環境の解決（声が聞きにくい等） <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不具合の原因を改善し ICT 環境を整える。
<p>(2) 諸規定の整備、時間外勤務の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアル・コンプライアンス規程・ハラスメント規程を整備し、教職員会議で共有した。 ・時間外勤務の削減目標は19時以降の勤務率の減少とし、月1回の運営会議で報告し、業務調整等を図った。4月から11月までの19時以降の勤務率は10%削減、昨年度の日数比較で見ると21日の減少となった。一方、19時までの退庁時間も昨年度より21日増加した。過去4年間で最大の削減率であった。 	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規程の点検・整備状況から評価、時間外勤務状況・実績から評価 ・学校運営評価結果 3.5 (小項目) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務者の業務指導を通して、質・量的なバランスの観点から調整を図る。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営会議では前月の全体的な時間外勤状況を報告しているが、時間外勤務者の業務状況（量・質）も併せて評価する機会を設ける。
<p>(3) 学校評価の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の重点目標を評価する評価項目を追加した。 ・評価項目を全体的に点検・修正を行った。 ・学生の学校生活満足度調査を新たに実施し、評価の低い項目は評価委員会で検討した。 ・看護技術の公開授業に参加型を追加実施した。その結果は教職員会議・運営会議・評価委員会に報告した。 	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備計画・実施状況から評価 ・学校運営評価結果 3.5～3.9 (小項目) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学校関係者からの評価を受け、課題を明確にする。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価により明らかになった課題を解決策を検討する。

IV その他、次の5つの取組みを評価

1 学校業務・委員会の取組状況

各種委員会	計画(4月)	中間評価(11月)	最終評価(3月)
1 図書	1 紛失図書ゼロ 2 蔵書点検(7・2月)	7月の蔵書点検で紛失図書はなかった。	計画通り達成
2 視聴覚教材	1 教材・備品の点検(年4回) オンライン授業で使用頻度増大 2 映像以外の活用による学習	1 点検4・7月は故障教材なし。 2 月平均使用回数・使用時間とも昨年より1.3倍に増大	計画通り達成 映像以外の活用が増大した
3 実習室管理	1 物品管理表の見直し 2 定期点検(8・2月)	1 事務の備品管理簿を活用 2 シーツ類のクリーニングを実施	計画通り達成
4 保健室・衛生管理	1 定期健康診断フォロー者の支援 24種ワクチン接種のフォロー 3 コロナ感染予防の徹底	1 各学年担任と連携し支援 2 フォロー者へ個別指導 3 各クラス保健委員に指導	計画通り達成
5 環境衛生・エコ	1 使用教室等のアルコール消毒指導 2 冷暖房の設定・エコ活動指導	1 使用量をチェックし消毒指導 2 教室を巡回指導	計画達成、設定温度基準調整済
6 自治会(支援)	1 自治会活動(行事に合わせた記念品の贈呈等)の支援	1 行事に合わせ、自治会運営を支援した。	計画達成、オンラインを活用して運営
7 体育館管理	1 物品の破損点検(7・12・3月) 2 体育館の整備	1 バドミントンのシャトル20個購入 2 用具収納場所の整理整頓	計画通り達成
8 進路指導	1 就職活動の支援・指導 2 就職説明会の運営	1 情報コーナーの活用、個別指導 2 施設へ案内、3月実施	計画達成、情報コーナー整備した。
9 国家試験対策	1 学年は基礎学力の育成、学習習慣の確立 2 学年は国家試験への動機づけ、基礎的知識の強化 3 国家試験合格への動機づけ	1 学年は学力差が生じ低迷者は個別指導を併用 2 学年は夏季休業後に学力差が生じた。全体指導及び低迷者には個別指導を併用実施。 3 学年は個別指導を強化。	計画通り達成 2年連続、国家試験100%達成
10 1学年	1 学生相互の関係形成を支援 2 報告連絡相談行動の強化 3 主体性のある学習習慣化	1 自分の考えの言語化が向上 2 徐々に行動化できている 3 指導・刺激が必要。要継続。	学生の主体的な行動変容を確認した。
11 2学年	1 学習習慣の定着化 2 必修問題7割以上獲得へ 3 相互に尊重した言動の推進	1 クラス2/3は学習習慣が定着 2 学習係りが「昼学」を開始 3 学生間の話し合いを強化	指導しながら主体的な取組みを支援・強化した。
12 3学年	1 国家試験対策強化100%合格 2 就職活動を支援	1 模擬試験分析・個別指導 2 個別相談による支援	学習姿勢が徐々に改善した。
13 カキキュム編成	カキキュム申請(仮申請6月・本申請9月)	カキキュム検討を定期的に行い、6月・9月予定通り申請した。	申請後も関係機関と調整した。
14 実習調整	1 コロナ禍での効果的な実習 2 新カキキュムに向けた実習調整	1 実習施設と調整による運営 2 実習施設と調整(計画立案)	感染拡大状況に応じ実習を調整
14 教育体制	1 派遣元・実習施設に教育体制の充実に向けた教員派遣の相談 2 公開授業等による教育連携	1 例年、関係機関に出向き、教員の派遣協力を依頼。 2 公開授業は見学型・参加型を実施。参加型は好評だった。	感染拡大状況に応じて公開授業を2/3を実施した。
15 学生確保	1 高校訪問・進路がイブンスに参加し年100件訪問の実施。 2 オープンキャンパス・見学会の運営 3 入学試験の運営	1 高校訪問70件、がイブンス11校で81件訪問実施(9/30) 2 年間8回実施、116名参加。 3 年7区分入試を3回実施。	感染拡大状況をふまえて積極的に活動を実施した。
16 学校評価	1 関係者評価委員会の運営 委員選任、個別説明・依頼 公開授業等評価、2月委員会 2 内部学校評価委員会の運営	1 公開授業は中止となった。 2 関係者評価委員会2月22日14時実施予定。 2 自己評価の実施。評価を基に報告書を作成。	計画通り実施し目標を達成した。

領域別評価

領域別看護学	計画 (4月)	中間評価 (11月)	最終評価 (3月)
1 基礎看護学	1 科目構成・内容の点検 2 演習方法の見直し	技術演習の授業前に自己学習をさせ、課題を認識させた上で演習を実施。リフレクションを通して学びを深化させている。	計画通り達成
2 成人看護学	クリティカル実習の指導方法等の検討	シミュレーション学習による状況判断から実践力・自己課題の把握に活用できた。	計画通り達成
3 老年看護学	コロナ禍でのメディア教材の活用の検討	リアリティをもった対象理解ができるようメディア教材や動画を活用した。	計画通り達成
4 小児看護学	1 科目構成・内容の点検	コロナ禍による保育園実習に伴い、成長発達マップを作成したところ、学生の理解度アップに繋がった。	計画通り達成
5 母性看護学	実習での学びを定着させる国家試験対策との連動	マクティサクル各期の学習を母性看護学全体に広げ学びを深化させた。	計画通り達成
6 精神看護学	新規実習施設での学習が円滑に進むよう調整	実習施設側と適宜、学生の学習成果を評価し実習の進め方を検討した。	計画通り達成
7 在宅看護論	地元の地域ケアシステムを捉え考える機会を設ける	結城市の地域ケアシステムを考え、地域包括支援センター・訪問看護ステーションの連携の実際を学ぶ機会を設けた。	計画通り達成
8 看護の統合を实践	コロナ禍による学内実習の方法を検討する。	コロナ禍による実習内容の検討が必要となり、現在検討中。	計画通り達成

2 学生の学校生活満足度調査

評価尺度：十分(5)、やや十分(4)、どちらとも言えない(3)、やや不十分(2)、不十分(1)

区分	項目	全体評価平均 3.9 以下の項目・評価
1 教育	1) 科目構成 4) 演習の理解 2) 時間割構成 5) 実習の理解 3) 講義の理解	項目：講義の理解 3.8 理由：講義の声が小さく、早口で分かりにくい講師がいた。
2 施設・設備	1) 教室環境 4) 学生ホール 2) ゼミ室環境 5) 図書室環境 3) 体育施設	項目：1) 教室環境 3.4 3) 体育施設 3.8 2) ゼミ室環境 3.8 4) 学生ホール 3.8 理由：全体的に冷暖房が効かず、夏は暑いし冬は寒すぎる。冷房中部分的に冷えすぎる。
3 学生支援	1) 親睦の機会 6) 就職支援 2) 食事・休憩の7) 国家試験対策環境 3) 健康支援 8) 経済支援 4) 学生相談(カウンセラー) 5) 学生面談(教員) 9) 事務手続き	項目：1) 親睦の機会 3.7 2) 就職支援 3.9 理由：コロナ禍の影響により、学生全体の親睦を図る機会が少なかった。 就職に関する情報が不足している。
4 学校生活	1) 知識・技術の取得 2) 人間としての成長 3) 看護学生としての成長 4) キャリア形成 5) 総合的な満足	項目：4) キャリア形成 3.9 理由：キャリア形成について、まだ具体的なプランまでは至っていない。

【上記の結果を受けて、学内で検討した結果】

- ① 施設・設備の教室環境の冷暖房に関して、学生から設定温度を調整して欲しいとの意見が多かったので、11月後半から暖房の設定温度を上げた。また灯油使用の暖房器具も併用し、部分的な寒さの解消を図った。環境を調整後、学生からの暖房に関する意見は出ていない。
- ② 学生支援の就職支援の全体評価は3.9と高いが、2年生から就職情報が不足していると意見があったことを受け、就職活動に影響しないよう3月の就職説明会に合わせて情報コーナーを整備する予定。

3 公開授業「看護技術」に参加した実習指導者との意見交換、アンケート調査

1) 「見学型」看護技術演習公開授業

(1) 目的

平成30年度から、専任教員の看護実践能力及び教育実践能力の向上を目的に、実習施設の看護師を対象に基礎看護技術演習を公開している。授業実施後は、実習指導者との意見交換を行い、客観的なご意見をいただくとともに、アンケート結果等を参考に授業評価を行っている。他者からの多面的・客観的評価を受けることで、教授方法の改善や看護実践力の向上に繋がっている。

また一方で、実習指導者からは、学生のレディネスの理解や臨地での指導方法の検討に繋がった等のご意見をいただき、双方での効果的・発展的な意見交換の場になっている。

よって、今年度も同様に公開授業を実施し、看護実践・教育実践能力の向上に繋げていく。

(2) 授業計画 ※ 緊急事態宣言期間 (8/20~9/30) 以降、公開を実施。

	月 日	曜日	時 間	内 容	担当者	見学者数
1	7月5日	月	10:40~12:10	食事介助	海老沢	約4名
2	7月13日	火	13:30~15:55	バイタルサイン測定	青木	約4名
3	8月23日	月	13:30~16:40	全身清拭・寝衣交換	池田	約4名
4	8月30日	月	15:10~16:40	経管栄養法	海老沢	約4名
5	9月3日	金	15:10~16:40	便器・尿器介助	上田	約4名
6	9月22日	水	13:30~15:55	陰部洗浄・おむつ交換	上田	約4名
7	10月13日	水	13:30~15:00	浣腸	上田	約4名
8	10月27日	水	13:30~15:55	一時的導尿	上田	約4名
9	11月24日	水	13:30~16:40	フィジカルアセスメント	青木	約4名
10	12月15日	水	13:30~15:55	静脈血採血	青木	約4名
11	1月14日	金	13:30~16:40	筋肉内注射	青木	約4名
12	1月26日	水	13:30~16:40	点滴静脈注射	青木	約4名

(3) 案内施設:14施設

種類	施設名	施設数	対象者
病院	城西病院、結城病院、友愛記念病院、ホスピタル坂東 古河赤十字病院、茨城県西部メディカルセンター、 茨城西南医療センター病院、下館病院	8病院	実習指導者等
老健・老福施設	介護老健保健施設すばる、特別養護老人ホームしらとり	2施設	
訪問看護ステーション	愛美園・春風・ゆいナースステーション・筑西診療所 訪問看護ステーション	4施設	
他	結城市健康増進センター	1施設	

(4) 授業評価

・授業実施後にアンケートと、意見交換会を実施した。

項目	内容	人数	内容	人数
参加した授業	全身清拭・寝衣交換	1人	静脈血採血	2人
	フィジカルアセスメント	3人	筋肉内注射	2人
参加理由 (複数回答)	今後の学生指導に生かしたい	5人	上司に勧められた	1人
	看護基礎教育で行われている学習に興味があった	5人	教員の指導方法を参考にしたいと思った	1人
	自分の看護技術を振り返る機会にしたい	4人	新人看護師オリエンテーションに参考にしたい	1人
	学生のレディネスを把握したかった	2人		
企画	良い企画である 理由：病院の職員も基礎を振り返る機会になる。学生指導上、基礎を再確認することができる。技術演習の実施方法がわかった。新人看護師の授業背景がわかった。			8人

内容	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
演習の時間配分は適切だった	5人	3人	-	-
演習の学生の反応をみながら進められていた	8人	-	-	-
資料は実習にも活用できるものだった	8人	-	-	-
学生は演習に真剣に参加していた	4人	3人	1人	-
演習は実習指導に役立つ内容だった	8人	-	-	-
自由記載：採血の演習で笑いながらは良くないと思った。 実際の現場を感じさせ、意識できるような教員の声かけができていて良かった。 グループによって積極性や指導がバラついていてと思います。				

ご意見・ご感想	<ul style="list-style-type: none"> ・次回は見学型ではなく、参加型に参加したい。 ・院内のスタッフ（主任・指導者）に参加させたい。 ・他に公開してほしい演習は、看護過程の展開・倫理の授業である。
---------	---

【上記の結果を受けて、学内で検討した結果】

- ①実習施設の教育担当者は新人看護師の教育プログラムを見直すため、当校の看護技術教育の内容を確認するために参加された。当校も卒業後の現任教育の現状や課題を基礎教育にフィードバックする必要性を感じた。看護技術に関する課題を共有し検討する機会を設けたい。
- ②看護基礎教育と看護職員の新人教育が円滑に進むよう学校と施設が教育を連携する方法を検討していきたい。

2) 「参加型」看護技術演習公開授業

(1) 目的

参加型の公開授業は今年度初めての企画である。企画にあたって、茨城県西部メディカルセンター看護部長に意見を求めたところ、実習指導者に積極的に参加させたいと賛同が得られたため、の実習指導者を対象に実施することになった。その結果、次年度の参加型・見学型の公開授業の実施方法を検討する予定である。

(2) 内容・方法

「授業計画」 ※ 緊急事態宣言期間（8/20～9/30）以降、公開を実施。

月 日	曜日	時 間	内 容	授業担当	参加依頼数
8月23日	月	13:30～16:40	全身清拭・寝衣交換	池田	2名
9月22日	水	13:30～16:40	陰部洗浄・おむつ交換	上田	2名
11月24日	水	13:30～16:40	フィジカルアセスメント (呼吸音・心音・腹部音聴診)	青木	2名
12月15日	水	13:30～15:55	静脈血採血	青木	2名

(3) 授業評価

・授業実施後にアンケートと、意見交換会を実施した。

項目	内容	人数	内容	人数
参加した授業	フィジカルアセスメント	2人	静脈血採血	2人
参加理由 (複数回答)	今後の学生指導に生かしたい	4人	自分の看護技術を振り返る機会にしたい	3人
	看護基礎教育で行われている学習に興味があった	3人	学生のレディネスを把握したかった	2人
企画	良い企画である 理由：授業の実際をみる機会ができて良かった。学生の声を聞いて実習に役立つと思う。真剣に取り組む姿をみて初心に戻れ、良い刺激になった。実際の技術指導を理解できたので、今後の学生指導に役立てたい。 新人看護師の授業背景がわかった			4人

内容	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
演習の時間配分は適切だった	2人	2人	-	-
演習の学生の反応をみながら進められていた	3人	1人	-	-

資料は実習にも活用できるものだった	4人	-	-	-
学生は演習に真剣に参加していた	4人	-	-	-
演習は実習指導に役立つ内容だった	4人	-	-	-
自由記載：学生の予習がとても良くできていました。				

ご意見・ご感想	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のひた向きに取り組む姿に身が引き締まりました。フィジカルアセスメントの実際は自分も学習する機会がなかったので、学生と共に学ぶ姿勢で行いました。 ・何気ないアドバイスを必死にメモをする学生の目は真剣で良い看護師になるだろうとうれしくなりました。将来、一緒に働けることを楽しみにしています。 ・振り返りの時間帯に出た意見が次の演習に活かされており、効果的な振り返りができていた。 ・演習に取り組む姿勢や患者さんへの対応も丁寧に行っていた。 ・看護師として自分を振り返る機会になりました。とても楽しく参加できました。 ・学生との距離感が近づけて楽しかった。 ・今度は見学型ではなく、参加型で参加したいと思いました。
---------	---

【上記の結果を受けて、学内で検討した結果】

- ① 授業前に参加者の施設に出向き、授業内容・方法について打合せを実施した。指導者からは事前の打合せがあったので学生の質問に対応できたと評価を受けた。事前打合せは今後も継続していく。
- ② さらに、技術面の細かい指導に関して、授業当日に教員と最終チェックをしたいとの意見があった。授業前に30分程度、教員と指導者間で打合せを行う方向で、学内で検討することになった。上記の①②を次年度の取組として継続する。参加型の公開授業を希望する施設が増えたため、見学型を縮小し参加型を拡げられるよう学内で検討を進める。

4 授業参観に参加した保護者アンケート調査

(1) 目的

学校評価における授業評価は「わかる授業」をめざし、学校組織として多面的・多角的に授業を評価することで、学校全体の授業改善につなげている。保護者に対して、どのような授業が実施されているか公開することは、看護の学習への理解を深め、家庭と学校が連携協力体制を構築するうえでも重要である。

さらに、看護師養成所での教育を保護者に理解してもらうことによって、年々難化している看護師国家試験への対策や、学生の家庭での学習の動機づけを強化してもらえる機会にもなる。

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策として、戴帽式を縮小したため、戴帽式後の保護者会が開催できていない。そこで、新型コロナウイルス感染拡大が縮小傾向にある時期に、1年生・2年生の保護者を対象に公開授業及び保護者会を計画した。公開授業後には保護者から意見を授業評価に活用するとともに、保護者会や個別相談の時間を設け、看護基礎教育への理解と学習支援のための協力を得ることを目的とする。

(2) 内容・方法

回	日時・場所	授業内容
1 回 目	令和3年12月6日(月) 13:30~15:00 場所：A教室(2階) 対象学年：1年生(29回生) 参加人数：保護者10名程度 ※15:10~懇談会(30分程度)	科目：看護学概論 単元：看護と社会(看護師のキャリア形成) 看護師は資格を取得したのちも自己研鑽が求められる一方で、どのような看護師をめざすのか、自分自身の将来設計によって卒業後の経験や学習の幅・深さも異なってくる。看護の学習を始めた早い段階から、自分の将来を見すえて看護師としてのキャリア形成を考えていくことは、就業先の選択や経験の積み方・学習の深め方に影響するため重要である。
2 回 目	令和4年1月26日(水) 13:30~16:40 場所：看護実習室1(3階) 対象学年：1年生(29回生) 参加人数：保護者10名程度 ※16:40~ご相談がある場合は応じます。	科目：回復促進援助技術Ⅱ 単元：点滴静脈内注射(演習) 看護師の法律上規定されている業務は「療養上の世話」と「診療の補助」である。中でも診療の補助技術は、疾病を治療するための与薬といった医師の指示に基づく医療行為があり、人体に危害を及ぼし得る技術である。演習では看護師が日常業務の中で行うことのできる「点滴静脈内注射」の技術で、人体に針を刺し薬液を注入する学生も患者役も緊張感を伴う技術演習である。

3 回 目	令和4年2月2日(水) 13:30～15:55 場所：C 教室（2階） 対象学年：2年生（28 回生） 参加人数：保護者10名程度 ※16:00～懇談会（30 分程 度）	科目：看護を総合する技術「指導技術」 単元：指導計画に基づき（指導媒体を活用した）指導 看護師は、対象が病とともに生きることを支えることもまた重要な看護 である。対象が疾病の悪化を予防するため、自らの生活を改善したり、 疾病を持ちつつも自分の症状や悪化の徴候を捉え、日常生活が円滑に送 れるよう教育・指導することも重要な看護となる。対象のニーズにあった 指導計画を立案し、適切な指導媒体を用いて指導を実施することを、グル ープワークを通して体験的に学ぶ。
-------------	---	--

【上記の結果を受けて、学内で検討した結果】

- ① 今回はCOVID-19感染拡大に伴い、授業の公開を中止することになった。
- ② 1年生の授業参観希望者は12～13人であった。1年担任・副担任・教務主任が参加予定の保護者に授業中止の連絡と学生の学校の様子や学習状況等を伝えた。また保護者から相談や質問等を受ける機会になり、保護者との支援体制を強める有益な時間に繋がった。
- 次年度もコロナ禍で実施できるか不明であるが、保護者対象の授業参観及び授業参観後の保護者会を継続実施する方向で検討を進める。

5 看護職員研修に参加した看護職員のアンケート調査

(1) 研修企画の基本的な考え方

茨城県看護教育財団研修は、茨城県西地域の病院、診療所、看護学校等に従事している看護職員を対象に、看護実践力及びサービスの質の向上を目的に、開校当時から実施している研修事業である。

研修内容は、厚生労働省の第6回看護基礎教育検討会（平成30年10月26日）で示された「看護師に求められる5つの看護実践能力（Ⅰヒューマンケアの基本的な能力、Ⅱ根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力、Ⅲ健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力、Ⅳケア環境とチーム体制を理解し活用する能力、Ⅴ専門職者として研鑽し続ける基本能力）」及び平成29年に日本看護協会が標準化した「看護師のクリニカルラダー」を基に企画している。

今年度は、「看護師のクリニカルラダー」の看護実践能力（意思決定を支える力・ニーズを捉える力・協働する力・ケアする力）の中の「協働する力」に関連する「医療・福祉機関と看護学校の教育連携」をテーマに研修を企画する。

(2) 今年度の研修ねらい

看護師養成機関では次年度より、新しいカリキュラムによる教育がスタートする。新カリキュラムでは、地域で暮らす人々を生活者として捉え、健康・傷病を問わず、あらゆる場において、看護を実践できる能力を育成することをねらいとしている。そのため、看護を学ぶフィールドは地域へと広がるとともに、地域のあらゆる看護活動の場が教育の場となり、看護学と地域にある施設との教育連携は、より一層強化する必要が生じる。

そこで、当財団では、地域に従事する看護職員に新カリキュラムの教育内容を説明し協力の機会に繋げるとともに、地域との教育連携のあり方についての示唆が得られる学びの機会とする。

(3) 主催

茨城県結城看護専門学校及び茨城県看護協会 合同研修

(4) 日時 令和3年11月20日（土） 午後1時30分から午後3時30分（2時間）

(5) 内容

① 当校における新カリキュラムの概要 当校教務主任

② 地域に必要な看護職員を地域で育てる教育連携 ～新しい看護基礎教育の特性をふまえて～

講師 山下 美智子 氏(公益財団法人筑波メディカルセンター看護部門長、県立つくば看護専門学校 学校長)

(6) 対象者 県西地域の看護職員及び看護教育関係者（筑西・下妻保健医療圏、古河・坂東保健医療圏）

(8) 受講者 213名

・当日参加者 123名 会場30名、オンライン97名（筑西・下妻地区67名、地区以外60名）

・動画配信参加者（2カ月間）84名（病院・施設41名、看護学校45名）

(9) アンケート結果

回収率：73.7%（157人）会場90%（27人）、オンライン72.2%（70人）、動画配信69.8%（60人）

	2年未満	2～3年	4～5年	6～10年	11～15年	16～20年	21年以上
会場	0	1	1	2	2	2	19
オンライン	6	2	5	22	12	4	19

【勤続年数】	動画配信	1	0	5	11	22	17	4
	割合	7(4%)	3人(2%)	11(7%)	35(22%)	36(23%)	23(15%)	42(27%)

【職種】		保健師	助産師	看護師	准看護師	介護職	看護教員
会場	0	0	20	0	0	7	
オンライン	0	4	27	1	0	38	
動画配信	0	4	56	0	0	0	
割合	0	8(5%)	103(66%)	1(1%)	0	45(28%)	

【勤務先】 (1) 病院・診療所		200～499床	100～199床	99床以下	無床
会場	9	8	0	1	
オンライン	6	25	0	0	
動画配信	24	23	0	0	
割合	39(25%)	56(35%)	0	1(1%)	

(2) (1) 以外

	訪問看護ステーション	保健所・保健センター	老人福祉・介護施設	看護学校・教育機関	その他
会場	1	0	1	7	0
オンライン	0	0	0	38	1
動画配信	5	0	3	0	5
割合	6(4%)	0	4(3%)	45(28%)	6(4%)

【研修の動機】 ※複数回答

	回答数	最新知識の獲得	テーマに関心	講師が良い	自ら希望	他者の勧め	その他
会場	27	15(56%)	14(52%)	9(3%)	10(4%)	10(4%)	7(2%)
オンライン	70	45(64%)	34(48%)	20(28%)	13(18%)	50(71%)	4(5%)
動画配信	60	27(45%)	29(48%)	16(26%)	8(13%)	50(83%)	5(8%)

【研修内容】

	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	あまり思わない	思わない
研修目的が達成できた	67(43%)	76(49%)	12(8%)	0	0
検収内容が理解できた	49(31%)	102(65%)	6(4%)	0	0
分かりやすい内容だった	52(33%)	89(57%)	14(9%)	2(1%)	0
今後活用できる	65(42%)	81(52%)	8(5%)	1(1%)	0
話すスピード・声の大きさは適切	71(46%)	71(46%)	10(6%)	4(2%)	0

【感想等】

- ・学生の実習を受入れているという認識から将来の看護職の担い手である・マンパワーを確保する人材であることを再認識することができた。実習指導者としての関りを見直す機会になった。
- ・学校と施設側が後輩育成のため教育連携を図り、教育の場として充実した環境づくりが重要と感じた。
- ・地域・在宅看護の中で自施設や自身の役割を考える機会となった。この地域の看護職員の育成について結城看護専門学校と共に考え、協働していきたい。
- ・カリキュラム改正に伴い、自身の看護のあり方を振り返る機会となった。地域の病院として看護職員・学生の育成のヒントになった。
- ・医療は地域を含めたサポートが不可欠であり、医療スタッフだけでなく、地域全体の資源の活用が大切である。看護学生に対し、実習指導者・看護師としてのあり方を改めて考える機会となった。
- ・施設にいると最新の看護教育を知る機会がなかったので勉強になった。教育内容をもう少し知りたい。
- ・オンラインだったので、時々音声途切れ聞き取りにくい時があり残念だった。 他多数あり。

【上記の結果を受けて、学内で検討した結果】

- ①県西地域の看護職員対象の研修を開設時(平成4年)から開始し受講者は今年度を含めて総勢3248名になった。
- ②今年度はコロナ禍での研修であったが受講者人数やアンケートの結果から、オンラインを活用したことや受講後の動画配信は受講しやすく有効だった。今後もオンライン・動画配信は併用したいと考える。
- ③看護職員から基礎教育を知りたいというニーズがあったので今後も学校の情報発信は継続していく。
- ④課題として、オンライン・動画視聴者のアンケート回収率が低かった点である。要因はFAX・郵送による回答は手間がかかりと回収率を下げた。今後は簡易な回答方法(アプリの活用等)を検討する必要がある。

V 全体を通して

自己評価は平成30年度から開始し、今年で4年目の実施を振り返り、以下の点を全体評価とする。

①自己評価について

- ・自己評価表は毎年点検し、必要な事項を評価項目に追加し整備してきた。今後は項目内容を質的に評価できるように評価精度を高めるために検討を進めていく。

②重点目標（組織目標）の評価

- ・目標に対する取組について、評価方法・尺度の検討が十分でなかった。
目標を設定する際に、その点も視野に入れて検討を進めていく。

③その他の評価（5つの取組）

- ・其々の取組は5年以内の事業であり、実施しながら整備してきた。概ね、内容整備が進んだので、今後は、上記①の評価項目で評価できるように評価内容を整えたい。
- ・自己評価報告書は①②を中心に報告していく。

以上